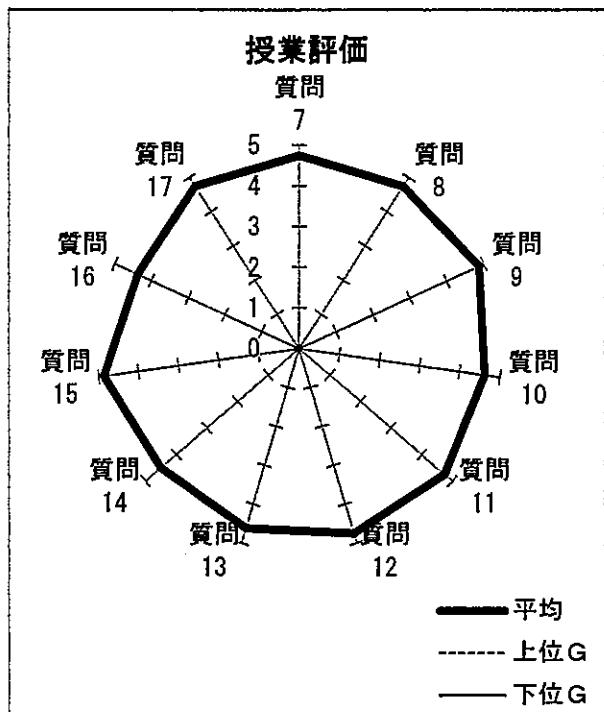


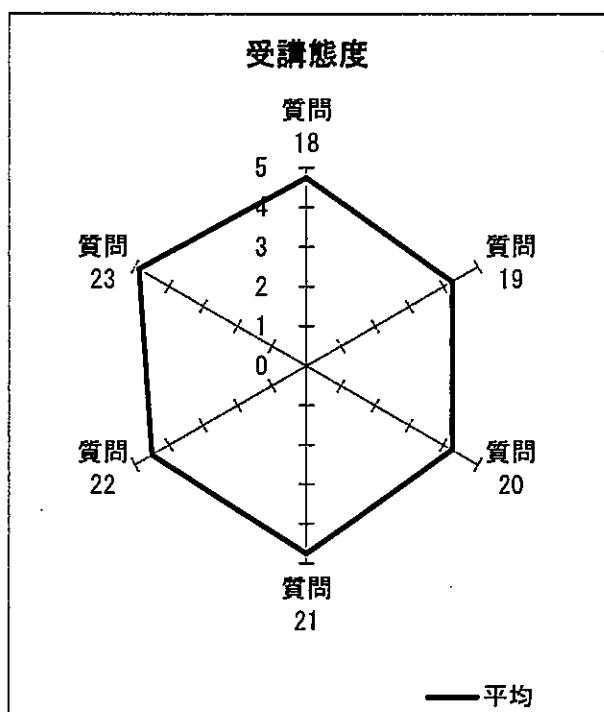
科目コード 402 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 草場 紀久子 音楽理論基礎



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.6	4.6	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.6	4.6	#DIV/0!
質問14	4.5	4.5	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.4	4.4	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.7	4.7	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.3
質問20	4.3
質問21	4.8
質問22	4.5
質問23	4.9
平均	4.6

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽	草場	音楽理論基礎	11人

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

従来から同名の科目はあったが、今年スタートの新カリキュラム施行に伴い、次の2点を新しく取り入れる内容となった。

1. 従来のクラシック系理論（楽典）とポピュラー系の理論基礎が合同となる。よってコードネーム必修となる。

2. この授業の単位で持ってカワイのグレード取得の一条件となる。

よって、コードネームを理解し、それを見ての伴奏づけが少なくとも理論的には理解できることを目標の一つに置いた。コードネームに関しては、音楽学部准教授、安川徹氏作成の「コードネームドリル」を教材にし、適宜宿題を課した。また授業内で、メロディー、コードネームによる伴奏付けの実践を行った。

最初は大学入学以前に、音楽理論の勉強が不足していた学生と、カワイグレード取得の一手段を目指す学生の間に理解力の差があったので、授業の進め方に工夫をする必要があった。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：音楽理論基礎

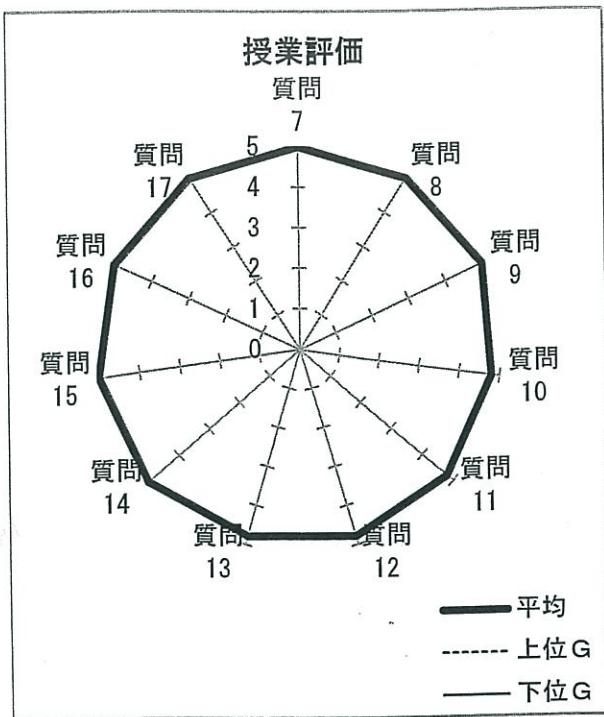
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

上に述べた状況は2019年度も同様になるかと思われる。

今年は、クラシック系楽典の部分と、コードネームを別々に取り上げたが、次回は同時に学習する方法をとり、どちらが学生の理解の簡易さにつながるか、検証してみたい。

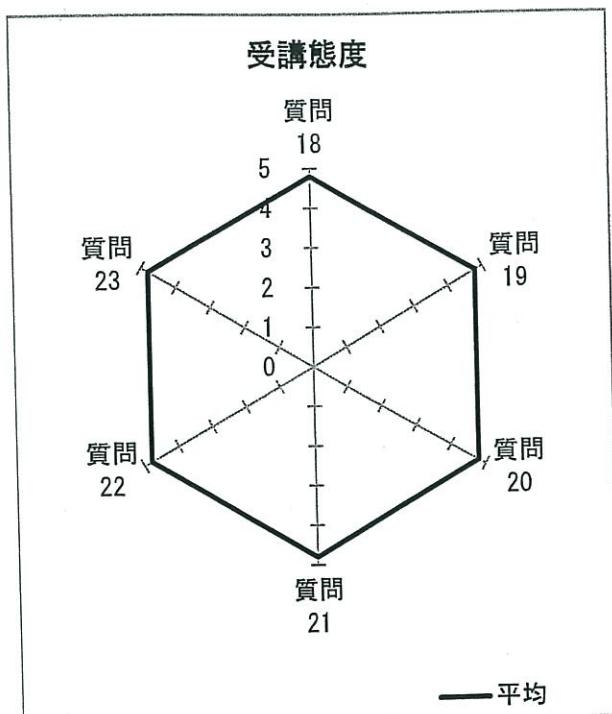
科目コード 405 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 加藤 豊 即興演奏 IIa



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.8
質問20	4.8
質問21	4.8
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.8

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3 ...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	加藤 豊	即興演奏Ⅱa	4名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今年度のこの講義に関しては少なからず不安があった。昨年度までは即興演奏Ⅰabを経て、Ⅱabに続く講義であったが。カリキュラム改訂の結果、即興演奏Ⅰabの自分の担当はなくなり、Ⅱabだけを担当することとなった。つまりⅠabとⅡabの2年間の講義内容をⅡabの中で1年間に凝縮することとなった。ただ、今回受講した4名については、極めて優秀で、実技能力もあり、また課題などの宿題も真面目に取り組んできたため、予想以上の進度を見ることが出来た。
Ⅱbによってさらに進度が進めば、2年分を1年に凝縮するという途方もない計画も達成できるかもしれない。と期待している。

II. 2019年度に向けての取り組み

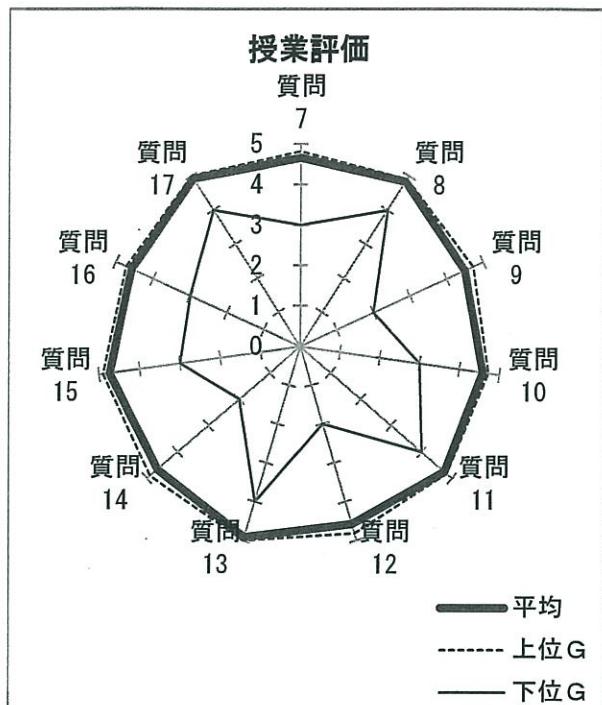
2019年度担当予定科目名：即興演奏Ⅱb

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

この講義はヤマハのグレード試験受験を前提としている講義であるが、少し、範囲を広げて即興全体を教授できるよう計画を立ててみたい

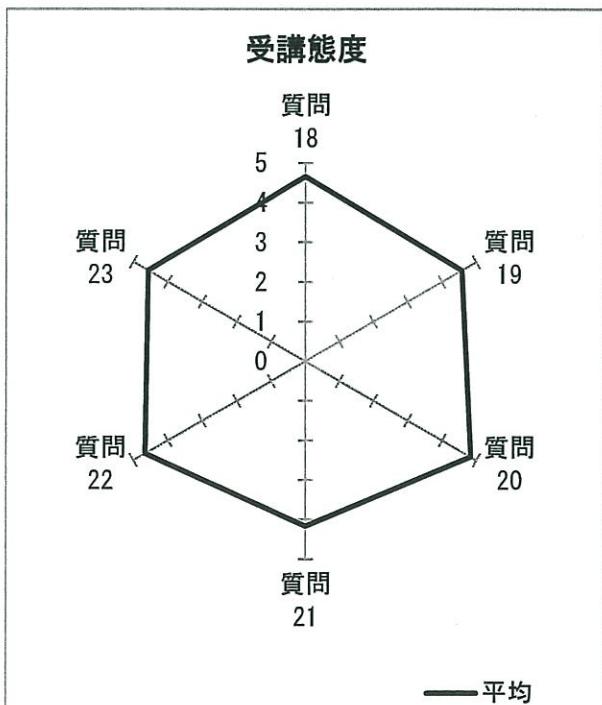
科目コード 406 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 安川 徹 情報処理基礎



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.7	4.8	3.0
質問8	4.8	4.9	4.0
質問9	4.5	4.7	2.0
質問10	4.6	4.7	3.0
質問11	4.8	4.8	4.0
質問12	4.6	4.8	2.0
質問13	4.9	5.0	4.0
質問14	4.7	4.9	2.0
質問15	4.8	4.9	3.0
質問16	4.6	4.7	3.0
質問17	4.9	5.0	4.0
平均	4.7	4.9	3.1

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問8：教員の授業時間遵守
- 質問9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.6
質問20	4.8
質問21	4.2
質問22	4.7
質問23	4.6
平均	4.6

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	安川 徹	情報処理基礎	30

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今回初めて受け持つ授業でもあり、どういった課題を与えていくか試行錯誤で進めざるを得なかった。また、大人数ということで教室を全体を使わざるを得なくなり、苦手な学生に限って後ろの方に座るという傾向が目立った。また、広い教室なのを忘れて、つい地声で話してしまい、声が届きにくいということがあったかもしれない。また、すでにやったことがある学生とまったく初心者レベルにある学生との折り合いをどうつけていくか課題として残った。また、欠席した学生に授業内での課題を後日、提出を促す必要も感じた。

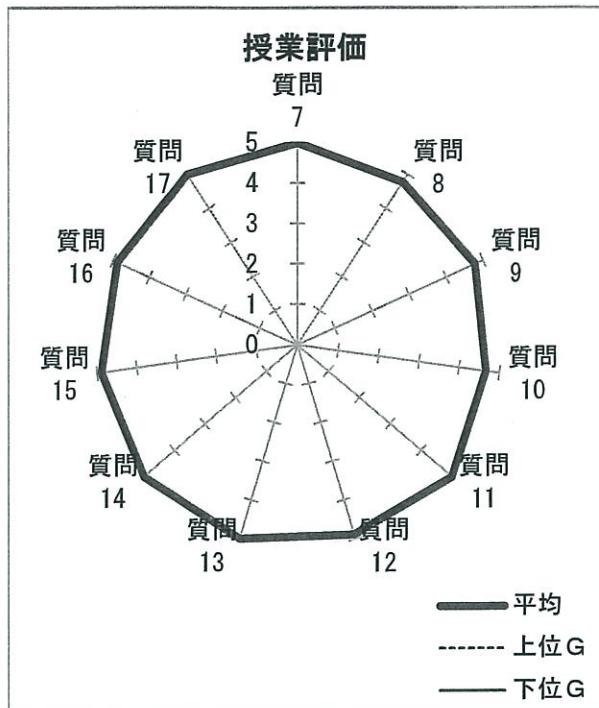
II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：情報処理基礎

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)まずは授業環境を改善するために座席指定を導入したい。それに伴い、できる学生は積極的に他の学生のフォローに回れるような授業環境を作ることに配慮したい。また、アプリケーションの習得だけでなく、コンピュータに対する基礎的な知識ももっとわかりやすい方法を模索していきたい。

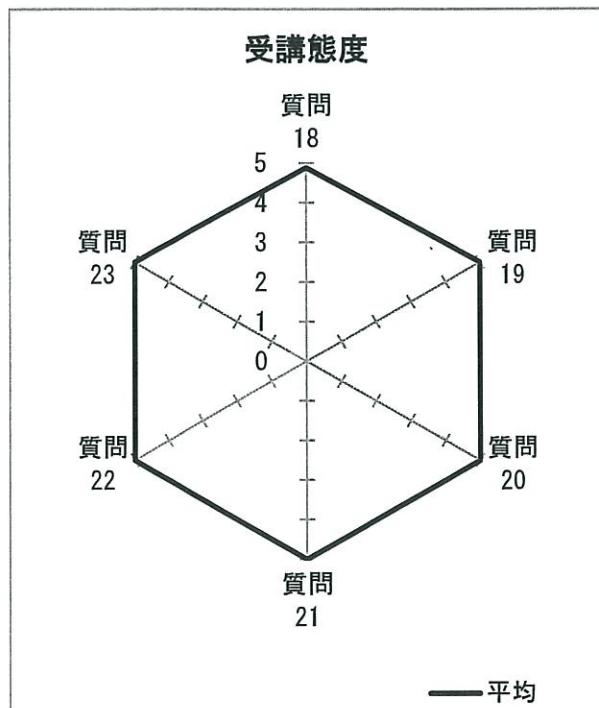
科目コード 407 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 吉田 峰明 音楽概論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.7	4.7	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問8：教員の授業時間遵守
- 質問9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	5.0
質問20	5.0
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	5.0

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自肃、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽	音楽	吉田峰明	音楽概論	9名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価はすべての項目で4.7以上であり、特に問題はないと思う。受講態度の方も、全員きちんと受講しており、問題ない。

本年度より新カリキュラムのもと、音楽文化コース学習の第一歩となるこの科目であったが、ほぼ計画通りに進めることができた。しかしながらまだまだ充実は可能だと思うので、さらなる改善を図りたい。

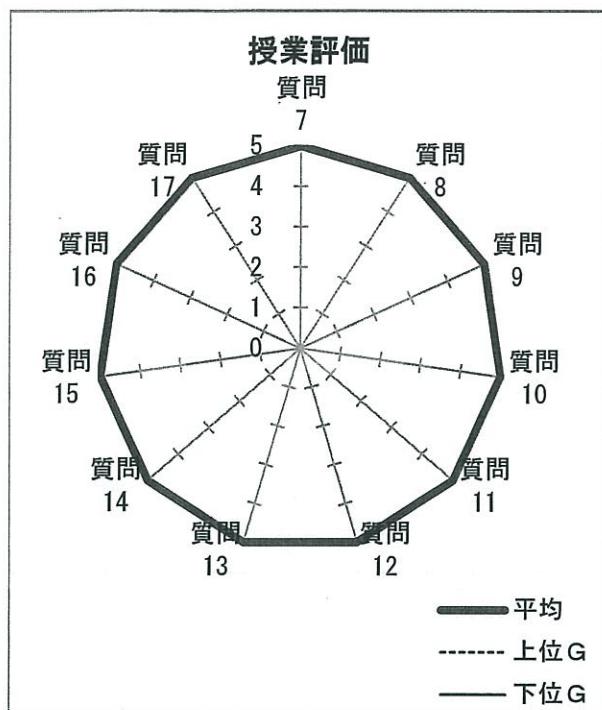
II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：音楽理論 I a

2019年度からはじめて担当することになる。音楽理論の中心となる「和声学」は近年、フランス流の内容に変遷しつつあるため、どの程度までこれを取り入れができるかを含めて、学生の反応を検証したい。

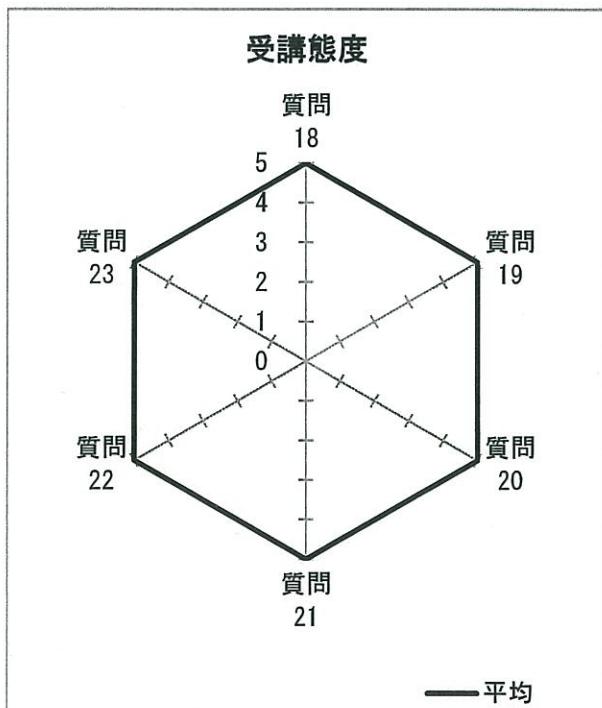
科目コード 410 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 三好 直英 吹奏楽



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	5.0
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	5.0

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自肃、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	三好直英	吹奏楽	15名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

質問7～17において、平均値が5.0、質問18～23においては平均値が5.0の範囲であった（上位G15名）。

- これまでの吹奏楽実践の講義をふまえながら演奏を中心とし、吹奏楽の知識を高めるとともに、これから音楽教育の一端を担うものとして指導者としてのスキルを向上するようにもつとめた。単位を必要とする学生のみならず必要としない学生も高い意識でこの講義に参加しておりその姿に感銘を受けた。
- 前期には吹奏楽講義の延長として吹奏楽コンクールに出場するという大きな目標もあった。各自が学業との両立て苦労しながらも九州大会、そして全国大会へと進んだことは学生の素晴らしい努力があったことは間違いない。その結果がこの評価につながったと考える。

II. 2019年度に向けての取り組み

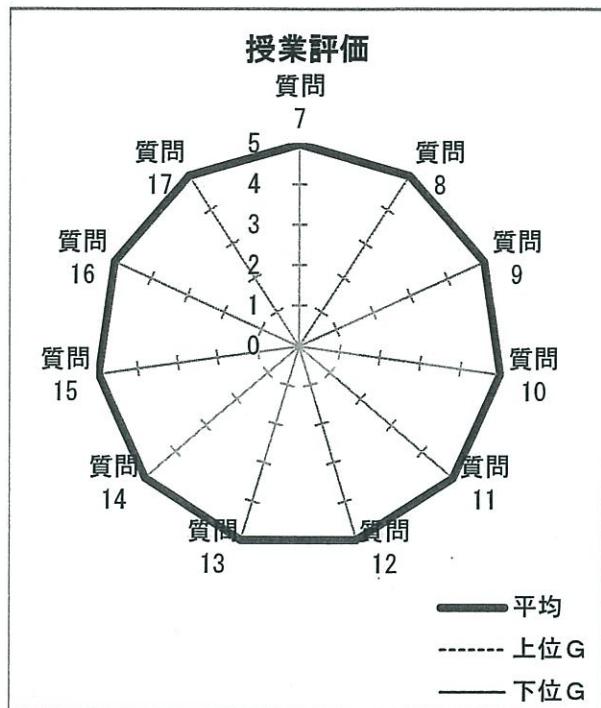
2019年度担当予定科目名：吹奏楽

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

- 吹奏楽の知識においても技術においても個々の差があるが、その差を感じさせない成長ぶりであった。そのことからも今後可能な限り学生の知識、技術の向上はもちろんのこと、より演奏家、指導者としてのスキルアップを目指し個々の学生の可能性を伸ばしていきたい。そのためにもより実践的な演奏法と指導法を伝え研究していきたいと考える。

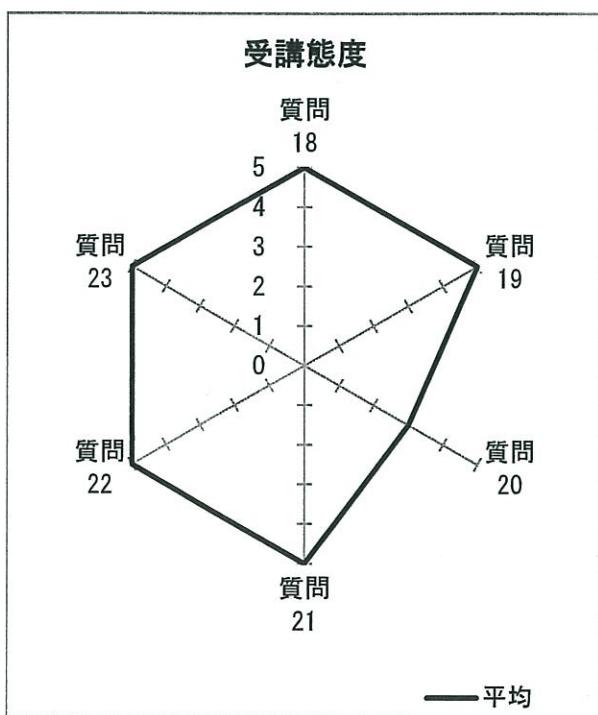
科目コード 417 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 碓井 貴美子 演奏表現研究Ⅲ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	3.0
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.7

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	碓井貴美子	演奏表現研究III	1

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

4年生にとって、卒業年度である前期は、就職活動の追い込み時期と重なりましたが、時間の制限がある中、作品演奏研究を精力的に重ねていたと私は感じております。

学生にとっては、外部での演奏機会にも恵まれ、その一つ一つが、結果として、勉学の向上心に上手く繋がっていったように思います。個人レッスンならではの相手を信じる、さらに学生との気持ちのつながりが、より一層、信頼関係を深め、すべての成果に通じていったと考えます。

II. 2019年度に向けての取り組み

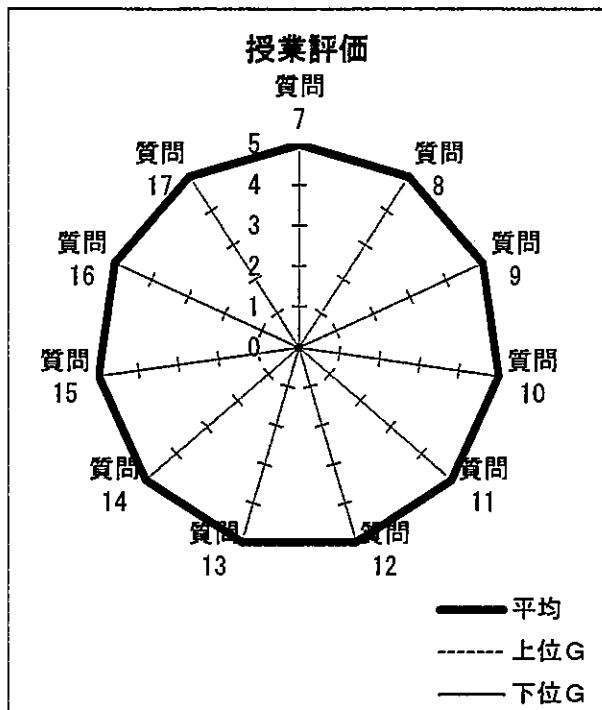
2019年度担当予定科目名：演奏表現研究III

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

ピアノレッスンは、学生一人一人とのかかわりが、非常に意味を成してまいります。相手とのコミュニケーション、信頼関係が最も重要で、さらに教員の指導力が学生其々の「演奏」というかたちで、有形の姿で現れてまいります。個々の学生の演奏基礎力が異なることを踏まえ、学生らの演奏学習に的確に指導をおこない、音楽に対する姿勢をしっかりと支え、更にあたたかい気持ちで後押ししてまいりたいと考えます。

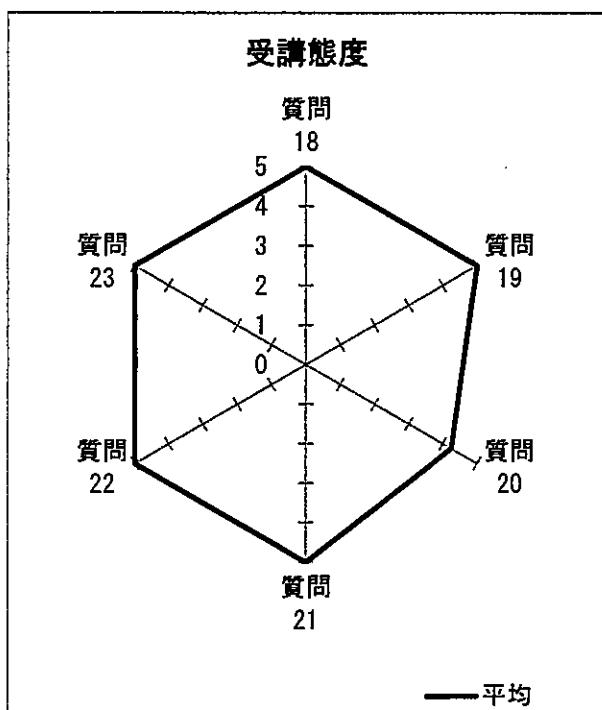
科目コード 418 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 草場 紀久子 フルートa



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	4.3
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.9

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	草場	フルート a	10人

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今年度スタートした音楽学部新カリキュラムに伴う新規開講科目。

フルート実技をグループ授業で行う。一つの楽器を習得していく過程を通して、各学生が音楽に取り組む際の学び方を身に付けることを目標の一つとした。

授業以外に練習を行うことを課し、その内容・時間などを記録してもらい、それと習得状況とを照らし合わせて検証し、コンスタントに練習を行う有用性を理解してほしかったが、それ以前に、日常的に練習をする習慣を身に付けるまでには至らなかった。

大学1年生が履修したが、高校までの学び方から大学音楽学部での主体的な取り組みへの移行がうまくいかなかつたようだ。

学生からの授業評価としては高い評価のようであるが、授業実施者からすると、なかなか目標には到達しておらず、課題の残る半期スタートとなった。

II. 2019年度に向けての取り組み

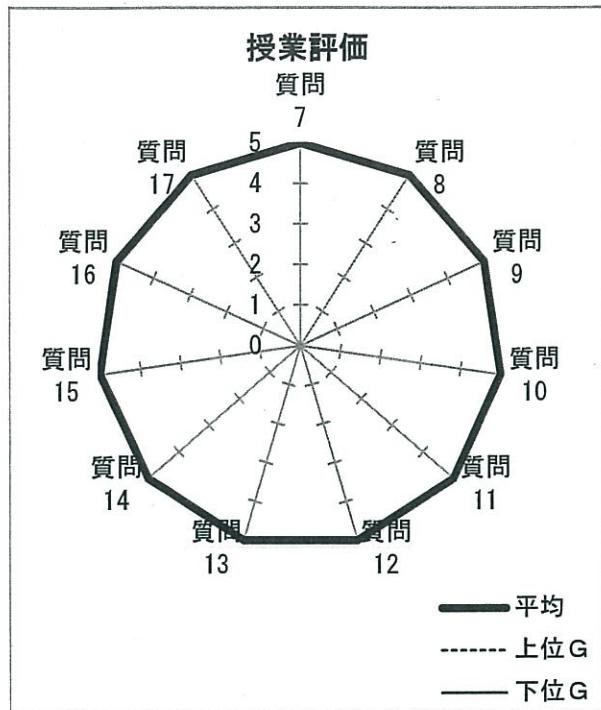
2019年度担当予定科目名：後期フルート b、2019前期はフルート a

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2018後期は、前期と授業スタイルを変え、更に教材の選び方を吟味し、目標とする発表会を設定するなど新たに試みている。学生が自然にフルートに取り組む自主性を持つことを引き続きの目標として取り組んでいきたい。

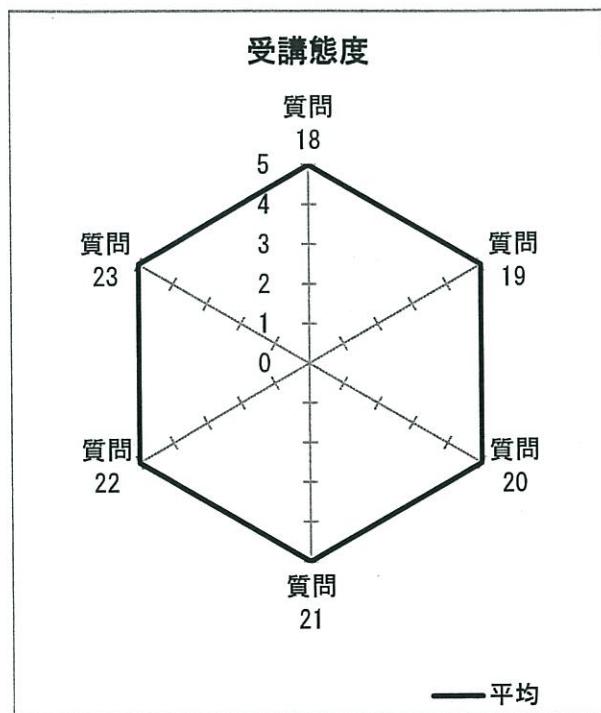
科目コード 420 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 持松 朋世 専攻実技 I a



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	5.0
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	5.0

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	持松朋世	専攻実技Ⅰa	2名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業の実際と集計結果より当事者が授業を行う中で、学生の授業評価と受講態度において本評価は平均的なものと受け止める。授業評価は勿論であるが、受講態度も教員の授業の臨み方次第であると思われる所以、今回の結果を受けて学生を如何に授業に臨ませるか、授業へのアプローチの仕方においても検討の必要性を感じる。

これらの結果から授業の振り返りを行うことが出来ることは大変有意義なことであり、今後その他の授業でも振り返りを行うことで、より良い授業を行う為の検討を行っていきたい。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：専攻実技Ⅰa～Ⅱb

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

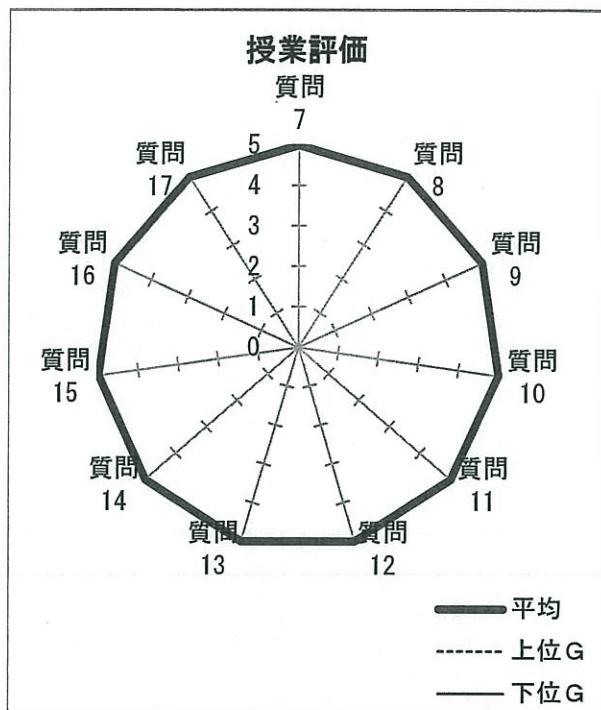
2018年度も同様に主科実技・副科実技など声楽のレッスンを行うことになると思われる。本授業の受講者は声楽専攻生であるためレッスンが一方通行ではなく、何を目的として行っているのか、具体的にはどのようにすると改善されていくのかなど、考える作業を伴うことでより教育現場での指導法に活かされるレッスンを目指していることを伝えていきたい。

また学生によってはオーディションやコンクールなどを目指すこともあり、そのためのレッスンは丁寧に且つ技術向上が学生自身にも感じ取れるように指導を行いたい。

特に実技では言葉で伝えられないことも学生は教員の演奏の提示一つで伝わってしまうという厳しさを忘れずに、教員も精進しつつ、緊張感を持って授業に臨みたい。

科目コード 425 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 三好 直英 アンサンブル I II III IVa



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

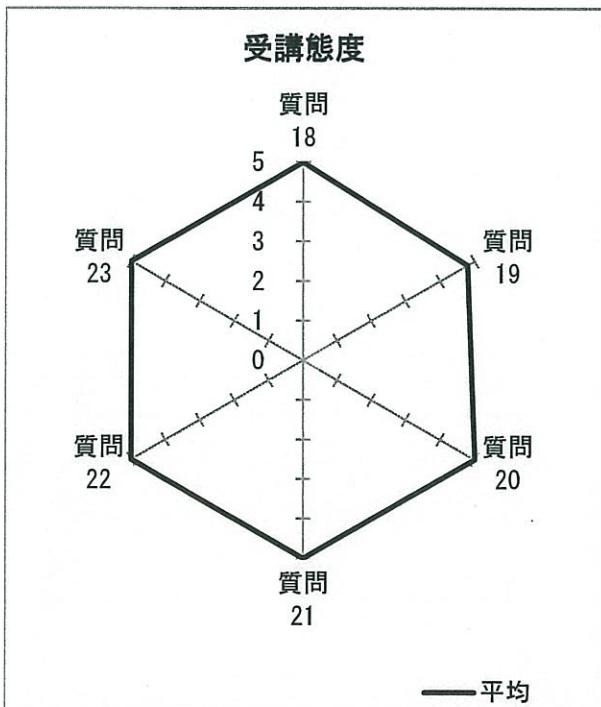
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.8
質問20	5.0
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	5.0

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	三好直英	アンサンブルⅠⅡⅢⅣ	8名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

- ・質問7～17において平均値が5.0、質問18～23においては平均値が5.0であった。
- ・これまでの実践を経て演奏の機会にも恵まれたこと、そしてアンサンブル定期演奏会に向けて受講学生の意識がさらに高まり、習熟度もあがり、より理解度が上がったと感じる。それがこの評価につながったと考える。
- ・アンサンブルという複数の人数で成立するものなので、全員が揃っての予習・復習が困難であったと考えられる。その中で学生は今までにも増して限られた時間の中で対処しそれを飛躍させたこと、また練習の創意工夫した点を非常に高く評価したい。学生の努力が常に見られる。
- ・アンサンブル授業の延長として第三回ホルンアンサンブル定期演奏会に向けてレパートリーの発掘やプログラミングに対する意識も高まった。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：_____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

- ・さらにホルン専攻生として必要なレパートリーをさらに増やすとともに、新たなレパートリーの発掘、そして今後ともハーモニー楽器としてのアンサンブルのスキルを身に着けていけるようにつとめたい。
- ・また演奏の機会をさらに増やしていくようにつとめていきたい。